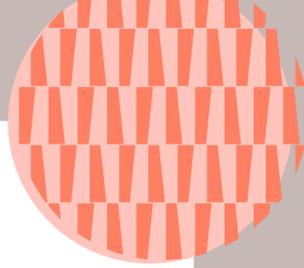




撮影したのは、沖縄駐屯の米国極東航空軍写真偵察中隊。P38 ライトニング戦闘機を改造した偵察機が使用されました。



# 終戦直前 米軍撮影の 大浜飛行場

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークが確認

米国立公文書館には、太平洋戦争中の日本に関する記録が多く保管されています。空襲・戦災を記録する会全国連絡会議の工藤洋三事務局長は、熊本県内にあった5飛行場の写真を新たに確認し、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表らと共に公表しました。その中には大浜飛行場の写真10枚（昭和20年7月27日撮影）が

含まれています。大浜飛行場の写真は、これまでに昭和20年3月10日撮影の航空写真などが確認されており、これに続く貴重な成果です。大浜飛行場は、昭和20年5月10日にB29爆撃機、13日に空母艦載機の攻撃で大きな被害を受け、民間人の死傷者も出ていました。今回確認された写真は、6月下旬に沖縄戦が終わり、本土決戦が予想される中で撮影されたものと考えられます。鮮明な画像で、飛行場北側の城ヶ崎、南側の横島山（外平山）を崩して土砂を運んでいるルートや、水田を埋めて造成されている範囲、爆弾跡とみられる丸い穴らしきものがはっきりわかります。飛行場以外の部分でも、現在は圃場整備などで失われた地割がわかる貴重な写真です。



小さい頃、北牟田に住む親戚の家に行くことを「飛行場に行く」と言っていました。この写真で飛行場の位置と広さがよく分かります。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 末永崇さん（横島町）

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

## 天水町野部田・法光寺 元特攻隊員と天水との交流

昭和20年7月末、中継基地となっていた大浜飛行場に移駐してきた第90・91振武隊（特攻隊）の隊員24人は法光寺に寄宿。出撃直前、そこで終戦の日を迎えました。各地に復員した隊員たちは戦後40年



▲記念碑と野田頭龍住職

近くが過ぎた昭和59年から法光寺に集まり、「法光寺会」を定期的に開催して交流が続きました。駐留当時は毎晩地元婦人会や近所の人たちが慰問に訪れていて、小天の福嶋住子さんは辞世の歌などの寄せ書きを戦後も大切に保管し、平成4年、47年ぶりに隊員と再会できたそうです。平成2年には、記念碑が本堂前に建立されました。



▲法光寺に残された日の丸



▲振武隊員と法光寺の人たち